

〔巻頭言〕

F D R の現況について

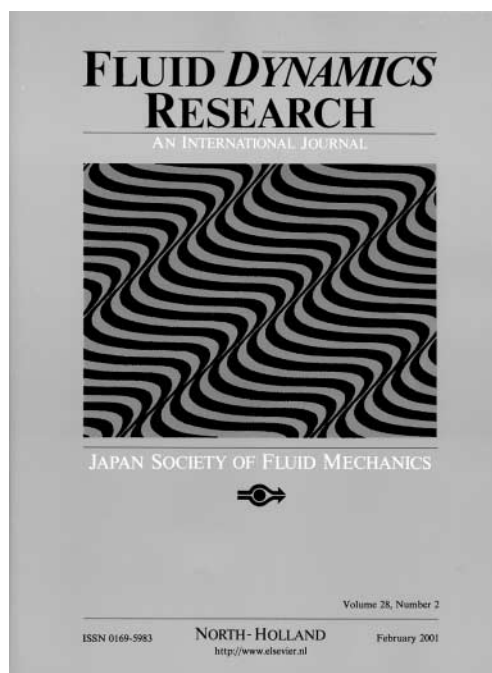
Fluid Dynamics Research 編集長 神 部 勉

日本流体力学会の英文誌 Fluid Dynamics Research (略称 FDR) は、オランダの出版社 Elsevier Science B.V. で印刷され、出版されています。その表紙に An International Journal と記されていますのは、FDR が国際英文誌であり、またそれを編集方針の第一の柱としていることを表明しています。表紙にはまた、Japan Society of Fluid Mechanics および North-Holland とインプリントされています。後者は発刊時の出版社名で、その後 Elsevier に合併・吸収されましたが、North-Holland をブランド・ロゴとして残しています。FDR に掲載された papers の copyright は、初期は日本流体力学会所有であったものが、1993 年より日本流体力学会および Elsevier Science B.V. の共有となりました (Front page には、Printed in The Netherlands とも記されています)。昨年からは編集委員の努力で、日本流体力学会のホームページ (<http://www.nagare.or.jp>) に、FDR の第 1 巻からのすべての掲載論文の題名、著者名、および Abstract が公開されています。これは著者および Users への大きなサービスとなっているものと信じます。現在は第 28 巻に至っています。

Copyright を共有にしたことで、FDR が Elsevier の Physics Journals 部門の一人前の Journal となっただけでなく、その当時すでに Elsevier が持っていた将来の世界的な出版戦略のルールに乗ることになりました。すなわち、将来 (当時からみて) Journals の論文は必ずデータベース化される、という見通しがあり、FDR が共有となって、Elsevier の出版物の電子ジャーナル化のコースに自動的に包含されることになりました。このことは出版契約の更新時に、Elsevier の担当者が私に明言していたことでした。この結果、FDR

の papers は Vol.15 (1995)以降すべて電子版が作られ、電子ジャーナルとして購読契約者 (主として大学図書館) に提供され、インターネットでアクセスできる体制ができました。(Elsevier : <http://www.elsevier.nl>)。

昨年からは日本流体力学会の FDR 購読者すべてへの新しいサービスとして、Vol.22 (1998)以降のすべての電子版にインターネット上でアクセスできるための Reader Key が配られました。論文のダウンロードも可能となりました。このことに関連して、この便利さを有効に利用する意味で、本記事の後半で私個人としての提案をさせていただきたいと思っています。従来、FDR 編集オフィスは本郷の東京大学の中にありましたが、



Fluid Dynamics Research 表紙

私の定年退官を期に、昨年4月から日本流体力学会事務局（東京都目黒区原町 1-16-5）内に移りました。

日本の他の学会誌の現状と比べて見ますと、従来、JSTAGE（科学技術庁関連）とNACSIS（文部省関連）が電子ジャーナル、電子図書館のシステムを開発してきましたが、今年からは両者とも同じ文部科学省に関係することになりました。Webで<http://jstage.jst.go.jp>にアクセスして見ますと、物理学会のJournal of the Physical Society of Japan (JPSJ)、および応用物理学会のJapanese Journal of Applied Physics (JJAP)はいずれも1994年から電子化され、公開されています。同じページで、他の学会誌の多くは電子化は最近の一・二年が主であることもわかります。

FDRのように日本国内で編集された英文論文誌が、外国の出版社で印刷・出版される例は数えるほどしかなく、また編集委員に外国のeditorsが参加している雑誌も非常にわずかであり、その意味でFDRの編集体制は新しい国際化の試みでありました。エルセビア東京支社との協力のもとに、科研費の研究成果公開補助金を得て、この試みが学術の面でも、出版事業の面でも成功していることは、上記電子ジャーナルのシステム開発の関係者、あるいは日本の欧文出版業界でも知られています。最近の統計では、掲載論文の半数以上は日本国外の著者によるものであり、FDR購読図書館の割合も半数以上は、アジア地域外にあります。

英文誌Fluid Dynamics Researchが1986年に発刊されてから今年で16年になります。編集長(Editor-in-Chiefと呼んでいます)を私が引き受けすることになったのは1991年で、それは学会が法人化される以前、日本流体力学会が法人化されたのは1993年でした。最初はquarterlyで発行したFDRでしたが、1991年にmonthlyとし、それからすでに10年になります。そのあいだ滞りなく出版してこれましたのは、編集委員の方々のご尽力に加えて、レベルの高いpapersを投稿して下さいました会員諸氏、および世界各地の投

稿者、およびレフェリーの基準の高いreviewsのお蔭であります。編集委員会はそのレフェリーシステムの仲介役および潤滑役と心得ています。FDRが今後の電子ジャーナル化の波のなかで生き残れるか否かは、レベルの高い投稿者グループを獲得できるか否か、基準の高いレフェリー群、査読システムを有するか否か、編集が公平かつ迅速で、雑誌のCirculationの範囲が広く、時代の要請に合った公表システムを備えているか否か、にあると考えています。FDRの論文のレフェリーは原則として匿名ですが、論文査読の労をとって下さいましたレフェリーすべてに感謝の意を表するために、Vol.10とVol.21のNo.6号に、それまでの全レフェリー名のリストを掲載しています。

国際的に学術誌を評価するデータとしてJournal Citation Reportという報告が毎年公表するデータがあります。FDRはそこでは、MechanicsおよびPhysicsの両カテゴリに登録されています。よく引用されるインデックスはImpact Factorですが、昨年のReportでは、FDRは0.45でした。一時は0.69のときもありました。Impact Factorは、調査年の直前2年間につき、その期間にFDRで出版された論文の総数に対する、それらの論文が調査年に引用された回数の比、で定義されます。1999年には、1997、1998年のFDR論文の約半数が世界的に引用されたことを凡そ表わしています。日本で編集されているJournalsで、Impact FactorがFDRより上なのはJPSJ, Progress および JJAP くらいだと思います。参考までに、Journal of Fluid Mechanics, Physics of Fluids の Impact Factor はいずれも約1.5程度となっています。

以上のようにFDRは、国際英文誌の中堅としての位置を維持しながら、将来の電子ジャーナル化に向けて、早くからそのシステムに対応できる体制を採用し、科研費の補助を得て充実させて参りました。また掲載される論文の基準も高いレベルに維持されています。会員がその研究成果を世界に発信する媒体として十分活用していただけるものと信じますし、また欧米およびアジアの研究者も、これまでもこの場を利用してきています。

現在、FDR の購読は特別の付加会費（会員割引で年間 5000 円）によっています。今後、電子ジャーナル化を推し進めて、JSTAGE のような電子ジャーナル・図書館にも登録されて、そこからもアクセスできるシステムをとれたらと考えます。それには会員全部に開かれることが必要であろうし、会員全部に Reader Key が渡せる必要があらうかと思えます。

そこで私個人としてですが、提案があります。流体力学会の会員が、現在の半額以下の付加会費を収めるだけで、現在の学会財政にほとんど影響を与えることなく、全員が Web 上で、あるいは JSTAGE のネットワークを通して、FDR へのアクセスを可能にする方法を採れるだろうと思っています。学会の有する国際誌を利用し、世界に向けて研究成果を発信するためにも、FDR へのアクセスを有効に拡大するためにも、是非とも皆様の積極的な対応をお願いしたいと思います。本提案に対するご意見を是非次のアドレスまでお

寄せ下さい：info@nagare.or.jp

エルセビアは編集委員会とは独立に、FDR の著者へ出版後にアンケートを出しています。その抜粋がエルセビアの担当者から最近提供されました。Positive な点としては、[Refereeing standard is good. Editorial board is good and adequate. Quick reaction upon submission of manuscript.] 等がありましたが、Journal の評価が（世界の基準では）必ずしも高くない、という回答も得ていることは、我々としては反省すべき点であると考えています。レベルの向上のためには、我々編集者、論文著者、レフェリーの三者の努力が欠かせないと思います。

FDR の出版が滞りなく行われていることにつきましては、編集オフィスの非常勤職員 (Editorial Secretary) 飯島三枝子さんの適切かつ遅滞ない事務処理・連絡処理のお蔭であることを、最後になりましたがつけ加えさせていただきたいと思います。

「ながれ」投稿論文の電子ファイル提出依頼について

「ながれ」編集委員会

「ながれ」に投稿された、解説論文、特集論文、原著論文、研究ノートにつきましては、受理（掲載決定）後、本文テキストの電子ファイルを学会事務局へ提出するよう依頼しておりましたが、今年度より、出版社窓口へ直接メール添付の形で送付していただくことに致しました。本文のファイル形式は、原則として $\text{\LaTeX}$ あるいはワードと致しますが、それ以外の場合も適宜対応致します。また、図面原稿につきましても、できるだけファイルを提出していただくようお願い致します。詳しくは、本号に掲載の「「ながれ」投稿規程」ならびに“投稿論文のファイル形式の手引き”をご参照ください。

なお、本号より、表紙デザインも一新しました。毎号、特集の中から適当な写真・図面を選びレイアウト致します。